

■第1回（昭和34年・1959年度）

毎日芸術大賞（文学）	井上 靖	小説「楼蘭」「敦煌」
毎日芸術賞（美術）	海老原喜之助	「蝶」（第5回日本国際美術展）
（演劇）	松本幸四郎	「嬢景清八嶋日記＝日向島＝」（4月、新橋演舞場）
（音楽）	間宮 芳生	「バイオリン協奏曲」の発表（6月24日、日比谷公会堂）

■第2回（昭和35年・1960年度）

毎日芸術大賞（美術）	中村 岳陵	四天王寺新金堂壁画「釈迦伝」
毎日芸術賞（文学）	丹羽 文雄	小説「顔」
（音楽）	松浦 豊明	「帰国独奏会」（6月2日、日比谷公会堂）
（写真）	土門 拳	写真集「筑豊のこどもたち」「るみえちゃんはお父さんが死んだ」

■第3回（昭和36年・1961年度）

毎日芸術大賞（文学）	吉川 英治	小説「私本太平記」
毎日芸術賞（映画）	小林 正樹	「人間の条件」3部作の監督
（舞踊）	藤間勘十郎	「勘十郎の会」における佐野源左衛門常世（10月28日、歌舞伎座）

■第4回（昭和37年・1962年度）

毎日芸術大賞（文学）	谷崎潤一郎	小説「瘋癲老人日記」
毎日芸術賞（放送）	内村 直也	ラジオ・ドラマ「マラソン」の海外輸出、「煙立阿蘇外輪山」ほか
（音楽）	プロ・ムジカ弦楽四重奏団	「ベートーベン弦楽四重奏曲」全曲演奏会
（演劇）	坂東三津五郎	「大商蛭子島」の文覚ほか（6月、歌舞伎座）
（舞踊）	西川鯉三郎	「西川鯉三郎創作舞踊発表会」（6月、芸術座）

■第5回（昭和38年・1963年度）

毎日芸術賞（文学）	舟橋 聖一	小説「ある女の遠景」（講談社刊）
（美術）	野口弥太郎	「セビラの行列」（第31回独立美術展）、「滞欧作品展」（4月、銀座・松屋）
（音楽）	歌劇「椿姫」	（7月、東京文化会館）上演関係者
（映画）	新藤 兼人	「母」（近代映画協会作品）の製作監督
（演劇）	ミュージカル「マイ・フェア・レディ」	（9月、東京宝塚劇場）上演関係者

■第6回（昭和39年・1964年度）

毎日芸術大賞（音楽）	桐朋学園渡米弦楽合奏団	渡米記念公演の成果に対し（6月、東京厚生年金会館）ほか
毎日芸術賞（文学）	三島由紀夫	小説「絹と明察」（講談社刊）
（美術）	加藤唐九郎	「加藤唐九郎陶芸展」の出品作（10月、新宿・伊勢丹）
（放送）	伊馬 春部	ラジオ・ドラマ「鉄砲祭前夜」「穂打ち乙女」ほか

■第7回（昭和40年・1965年度）

毎日芸術賞（映画）	市川 崑	記録映画「東京オリンピック」の演出
（音楽）	巖本真理を中心とする10人の演奏グループ	「ブラームス室内楽連続演奏会」（3月～7月、東京文化会館小ホール）の成果
（文学）	野口富士男	「徳田秋聲伝」（筑摩書房刊）
（写真）	岩宮 武二	作品集「京」（淡交社刊）、「大和の石仏」（淡交社刊）の成果

■第8回（昭和41年・1966年度）

毎日芸術賞（美術）	岡田 謙三	「渡米後の回顧展」（5月、東京・高島屋）の成果
（音楽）	三善 晃	「バイオリン協奏曲」の作曲
（演劇）	滝沢 修	劇団民芸公演「セールスマンの死」（5月、東京朝日生命ホール）「オットーと呼ばれる日本人」（8月、都市センター・ホール）の演技
特別賞（建築）	金子正則知事を中心とする建築関係者一同	「香川県の建築および都市開発のデザイン・ポリシー」

■第9回（昭和42年・1967年度）

毎日芸術賞（文学）	司馬遼太郎	小説「殉死」（10月、文藝春秋刊）
（美術）	手島 右卿	「右卿書作展」（3月、東京日本橋・三越）
（舞踊）	武原 はん	「春の会」（6月1日、国立劇場）、「秋の会」（10月3日、国立劇場）の舞踊
（音楽）	大橋国一、若杉弘を中心とする出演者一同	二期会による楽劇「パルジファル」公演（7月、東京文化会館）
（写真）	奈良原一高	写真集「ヨーロッパ・静止した時間」（5月、鹿島出版会刊）

■第10回（昭和43年・1968年度）

毎日芸術大賞（美術）	東山 魁夷	新宮殿壁画「朝明けの潮」の制作と「東山魁夷展」（11月、東京銀座・松屋）
毎日芸術賞（美術）	岩田 藤七	「岩田藤七展」（7月24日～28日、東京日本橋・高島屋）
（建築）	槇 文彦	「立正大学熊谷キャンパス」の設計
（演劇）	杉村 春子	文学座「女の一生」（全国巡演）の演技
（放送）	茂木 草介	テレビ・ドラマ「流れ雲」などの作者

■第11回（昭和44年・1969年度）

毎日芸術大賞（美術）	棟方 志功	「棟方志功版画大柵」（10月、講談社刊）と板芸業40年記念「棟方志功障壁画展」（11月、東京日本橋・東急百貨店）
毎日芸術賞（文学）	平野 謙	「文芸時評」上・下（9月、河出書房新社刊）
（演劇）	秋元 松代	戯曲「かさぶた式部考」（劇団演劇座公演）
（建築）	白井 晟一	「親和銀行本店」（佐世保市）
（写真）	石元 泰博	写真集「シカゴ・シカゴ」（10月、美術出版社刊）

■第12回（昭和45年・1970年度）

毎日芸術賞（美術）	宇治山哲平	「宇治山哲平展」（10月、東京銀座・壺番館画廊）
（音楽）	伊藤 京子	プーランクのモノ・オペラ「声」の歌唱（5月、第一生命ホール）
（演劇）	東野英治郎	俳優座公演「冒険・藤堂作右エ門の」の演技（10月、俳優座劇場）
（映画）	山田 洋次	「家族」（11月）、「男はつらいよ・望郷篇」（8月）の作ならびに演出
（放送）	広島テレビ放送の「光と風の生涯」制作関係者	テレビ・ドキュメンタリー「光と風の生涯」（11月）

■第13回（昭和46年・1971年度）

毎日芸術賞（文学）	大岡 昇平	「レイテ戦記」（中央公論社刊）
（美術）	楠部 弥弼	「楠部弥弼自選展」（4月～6月、大阪・阪神百貨店、東京日本橋・三越）
（建築）	前川 国男	「埼玉県立博物館」（大宮市）の設計
（音楽）	安川加寿子	ラヴェル作曲「左手のためのピアノ協奏曲」の演奏（5月、東京文化会館）
（演劇）	鶴沢 寛治	文楽「嬢景清・日向島の段」などの演奏（1月、大阪朝日座）
（写真）	白川 義員	写真集「ヒマラヤ」（小学館刊）

■第14回（昭和47年・1972年度）

毎日芸術賞（演劇）	宇野 重吉	劇団民芸公演「三人姉妹」の演出と効果
（建築）	浦辺鎮太郎	倉敷市民会館の設計と倉敷市の環境造成
（音楽）	栗林 義信	オペラ「蒼き狼」の歌唱と演技
（文学）	辻 邦生	小説「背教者ユリアヌス」（中央公論社刊）

■第15回（昭和48年・1973年度）

毎日芸術賞（建築）	大江 宏	「丸亀武道館」の設計
（放送）	金森千栄子	ラジオ・ドキュメンタリー「石崎の女一片倉千代」の制作
（能）	桜間 道雄	能「伯母捨」の復曲・上演
（彫刻）	佐藤 忠良	彫刻「佐藤忠良展」
（写真）	渡辺 義雄	「伊勢神宮」に代表される建築写真

■第16回（昭和49年・1974年度）

毎日芸術賞（文学）	荒 正人	「漱石研究年表」（集英社）の完成
（演劇）	山田五十鈴	東宝現代劇公演「たぬき」の演技
（美術）	吾妻兼治郎	彫刻「吾妻兼治郎展」の成果
（音楽）	「オルフォイス」上演関係者	二期会オペラ「オルフォイス」の成果

■第17回（昭和50年・1975年度）

毎日芸術賞（演劇）	仲代 達矢	俳優座公演「どん底」「令嬢ジュリー」の演技
（写真）	東松 照明	写真集「太陽の鉛筆」の成果
（放送）	倉本 聰	テレビドラマ「うちのホンカン」「ホンカンがんばる」の放送台本
（彫刻）	清水九兵衛	現代日本彫刻展出品作はじめアルミ合金による連作“アフィニティ”の成果
特別賞（建築）	太田博太郎と妻籠を愛する会 木曾路妻籠宿の保存による環境造成の成果	

■第18回（昭和51年・1976年度）

毎日芸術賞（文学）	遠山 一行	「ショパン」（新潮社刊）
（写真）	並河 萬里	写真集「シルクロード」（新潮社刊）
（建築）	村野 藤吾	「小山敬三美術館」の設計
（演劇）	森繁 久彌	ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」の演技
（美術）	山本 陶秀	「山本陶秀茶入展」

■第19回（昭和52年・1977年度）

毎日芸術賞（建築）	黒川紀章とトータルメディア開発研究所—— 国立民族学博物館における建築と展示の統一	
（文学）	寺田 透	「義堂周信・絶海中津」（筑摩書房刊）
（美術）	土方 定一	「土方定一著作集」（平凡社刊）ならびに美術館活動
（映画）	宮城まり子	映画「ねむの木の詩がきこえる」
（放送）	岩手放送	“岩手に生きる”シリーズの「チャグチャグ馬っこ騒動記」 「お父さん喜美恵と呼んで」

■第20回（昭和53年・1978年度）

毎日芸術賞（演劇）	飯沢 匡	「夜の笑い」の脚本・演出（劇団青年劇場上演）
（美術）	岩橋 英遠	「岩橋英遠展」（9月～11月、東京、京都、横浜、大阪の高島屋、および北海道立近代美術館）
（文学）	有吉佐和子	小説「和宮様御留」（講談社刊）
（放送）	テレビ番組「NHK特集」の制作関係者—— 「アマゾンの大逆流・ポロロッカ」「日本特別掃海隊」「炎の海—画家・青木繁の愛と死—」などの成果	
（音楽）	渡辺 暁雄	マーラーの交響曲第六番（1977年12月、東京都交響楽団）、 第二番「復活」（4月、日本フィル）の指揮
（写真）	林 忠彦	「日本の画家108人」（美術出版社刊）に代表されるポートレート写真の完成度

■第21回（昭和54年・1979年度）

毎日芸術賞（彫刻）	多田 美波	「極」（第1回ヘンリー・ムア大賞展） 「Chiaroscuro」（第8回現代日本彫刻展）の成果
（音楽）	東 敦子	第115回「毎日ソリステン」の成果
（演劇）	「子午線の祀り」上演関係者	「子午線の祀り」（山本安英の会制作）の実験的上演の試みとその成果
（建築）	菊竹 清訓	京都信用金庫コミュニティー・バンクと一連の空間計画の設計
（写真）	篠山 紀信	「激写・135人の女ともだち」（小学館刊）にみられる斬新な手法

■第22回（昭和55年・1980年度）

毎日芸術賞（建築）	大高 正人	「群馬県立歴史博物館」（高崎市）の設計
（演劇）	河原崎国太郎	前進座小劇場公演「切られお富」の演技
（放送）	木村 栄文	テレビ・ドキュメンタリー「鳳仙花—近く遙かな歌声—」の企画・演出
（文学）	篠田 一士	「日本の現代小説」（集英社刊）の成果
（音楽）	若杉 弘	オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「カプリッチオ」の指揮
特別賞（演劇）	越路 吹雪	六月西武劇場公演「古風なコメディ」の演技とシャンソン、ミュージカルにおける永年の功績

■第23回（昭和56年・1981年度）

毎日芸術賞（美術）	岩田 久利	「岩田久利作品展」（6月、東京日本橋・三越）
（美術）	吉田 善彦	「飛鳥日月屏風」（第66回院展）および「吉田善彦展」（9月、東京日本橋・高島屋など4会場）
（洋舞）	森下 洋子	松山バレエ団公演「ジゼル」（11月、日生劇場）の演技
（映画）	土本 典昭	長編記録映画「水俣の囃・物語」（青林舎）の制作・監督
（写真）	藤原 新也	写真集「全東洋街道」（集英社刊）

■第24回（昭和57年・1982年度）

毎日芸術賞（文学）	佐多 稲子	「夏の葉—中野重治をおくる」（新潮1月号～12月号掲載）
（演劇）	松本幸四郎	「アマテウス」（6月～7月、東京池袋・サンシャイン劇場）の演技
（音楽）	林 康子	藤原歌劇団公演「アンナ・ボレーナ」（7月、東京文化会館）の演技と歌唱
（写真）	久保田博二	写真集、写真展「桂林夢幻」（岩波書店3月刊および8月、東京銀座・松屋）

■第25回（昭和58年・1983年度）

毎日芸術賞（音楽）	朝比奈 隆	「ブルックナー連続演奏会」の指揮（9月、東京カテドラル聖マリア大聖堂）
（建築）	磯崎 新	「つくばセンタービル」の設計（茨城県新治郡桜村）
（演劇）	市川猿之助	「当世流小栗判官」「義経千本桜」の企画および舞台成果（7月、10月、歌舞伎座）
（書道）	宇野 雪村	「宇野雪村書業展」（3月、東京日本橋・三越）
（美術）	亀倉 雄策	「亀倉雄策デザイン展」（10月、東京銀座・松屋）
（文学）	水上 勉	「良寛」（中央公論1月号～12月号掲載）

■第26回（昭和59年・1984年度）

毎日芸術賞（放送）	佐々木昭一郎	「春・音の光一川（リバー）・スロバキア編」（1984年3月25日、NHK総合テレビ）
（美術）	鈴木 治	「鈴木治泥象展」（6月～7月、東京新宿・伊勢丹）
（美術）	田中 忠雄	「田中忠雄展」（9月、北海道立近代美術館、11月、東京セントラル美術館）
（文学）	吉村 昭	「冷い夏、熱い夏」（8月、新潮社刊）
特別賞（演劇）	山本 安英	「夕鶴」上演1千回の成果（1951年初演）

■第27回（昭和60年・1985年度）

毎日芸術賞（美術）	秋野 不矩	「秋野不矩自選展」（2月、大阪・大丸梅田店ほか）
（建築）	内井 昭蔵	「世田谷区立美術館」（11月、東京都世田谷区）と「修養団捧誠会御霊所」（2月、静岡県沼津市）の設計
（文学）	竹西 寛子	「山川登美子—『明星』の歌人」（10月、講談社刊）
（音楽）	田中信昭と東京混声合唱団	「東京混声合唱団第100回定期演奏会」（1984年12月、東京文化会館）をはじめとする永年の演奏活動
（美術）	福田 繁雄	「科学万博—つくば'85の『こども広場』の環境デザイン」などすぐれたデザイン活動

■第28回（昭和61年・1986年度）

毎日芸術賞（建築）	安藤 忠雄	「六甲の教会」（3月完工＝神戸市）の設計
（書道）	金子 鷗亭	八曲屏風「交脚弥勒」（3月、創玄展＝東京都美術館）
（演劇）	北村 和夫	「欲望という名の電車」（3月、文学座公演＝東京・サンシャイン劇場）のスタンレーの演技
（美術）	堀内 正和	渋谷区立松濤美術館開館五周年記念特別展「堀内正和」（9月～11月＝東京・松濤美術館）
特別賞（音楽）	NHK交響楽団	定期演奏会1千回記念公演「エリア」（10月＝NHKホール）の成果と六十年にわたる音楽活動

■第29回（昭和62年・1987年度）

毎日芸術賞（美術） <small>—陶芸—</small>	今泉今右衛門	「十三代今泉今右衛門展」（5月＝東京・三越本店） 「第34回日本伝統工芸展」（9月～10月＝同）
（演劇）	宇野重吉一座	「おんによろ盛衰記」「三年寝太郎」の公演（1986年9月～1987年11月＝全国各地）
（文学）	芝木 好子	「雪舞い」（新潮1984年11月号～1987年2月号連載）
（美術） <small>—グラフィック—</small>	田中 一光	「田中一光展—デザインのクロスロード」（1月＝東京・西武美術館）
（美術）	難波田龍起	「難波田龍起展」（11月～12月＝東京国立近代美術館）
（放送）	深町 幸男	テレビドラマ「今朝の秋」の演出（11月＝NHKテレビ）

■第30回（昭和63年・1988年度）

毎日芸術賞（音楽）	一柳 慧	「作曲家の個展—'88」（11月＝東京・サントリーホール）
（美術）	絹谷 幸二	「絹谷幸二自選展」（2月～3月＝東京・西武アートフォーラム） と個展（11月～12月＝東京・フジキ画廊）
（写真）	杉本 博司	写真集「SUGIMOTO」（9月＝リプロポット社刊） 写真展「DIORAMAS」（9月～10月＝東京・ツァイトフォトサロン） 写真展「SEASCAPES」（同＝東京・佐賀町エキジビットスペース）
（演劇）	吉田 養助	文楽「本朝廿四孝」八重垣姫の演技（4月＝大阪・国立文楽劇場、5月＝東京・国立小劇場）
（建築）	吉村 順三	「八ヶ岳高原音楽堂」の設計（7月完工＝長野県南佐久郡南牧村）
特別賞（映画）	渥美 清	映画「男はつらいよ」シリーズ40作を通じての成果

■第31回（平成元年・1989年度）

毎日芸術賞（音楽）	石桁真礼生	「石桁真礼生 個展」（3月＝東京・サントリーホール）
（映画）	今村 昌平	映画「黒い雨」の監督
（演劇）	木下 順二	「シェイクスピア」（全八巻7月完結＝講談社刊） 「木下順二集」（全十六巻5月完結＝岩波書店刊）の成果
（建築）	谷口 吉生	東京都葛西臨海水族園（9月完工＝東京都江戸川区）の設計
（書道）	千代倉桜舟	「黄河の印象展」（7月～8月＝東京・銀座ヤマト画廊）
（美術）	豊福 知徳	「豊福知徳展」（11月＝東京画廊、12月＝大阪・カサハラ画廊）

■第32回（平成2年・1990年度）

毎日芸術賞（音楽）	武満 徹	オーケストラのための〈ヴィジョンズ〉をはじめとする一連の作品
	（文学） 本多 秋五	「志賀直哉」（上・下巻、1月＝岩波書店刊）
	（美術） 三尾 公三	「幻想空間の女 三尾公三展」（10月＝名古屋・名鉄百貨店）
	（建築） 宮本 忠長	小布施町並み修景計画のプロデュース（1977年～1990年＝長野県小布施町）
	（演劇） 森 光子	「放浪記」の演技（9月～12月＝東京・芸術座）

■第33回（平成3年・1991年度）

毎日芸術賞（建築）	伊東 豊雄	八代市立博物館・未来の森ミュージアム（3月完成＝熊本県八代市）の設計
	（書道） 大平 山濤	「大平山濤書展」（10月～11月＝東京セントラル絵画館）
	（美術） 工藤 甲人	「画業50年 工藤甲人展」（8月～11月＝神奈川県平塚市美術館など）
	（文学） 高井 有一	「立原正秋」（11月＝新潮社刊）
特別賞（音楽）	日本現代音楽協会	「日本の室内楽」シリーズ演奏会（1990年12月～1991年1月＝東京・イイノホール）

■第34回（平成4年・1992年度）

毎日芸術賞（美術）	猪熊弦一郎	「祝90祭 猪熊弦一郎展」（10月～11月＝東京・ミキモトホール）
	（書道） 金子 聰松	「金子聰松書展」（11月＝東京セントラル絵画館）
	（演劇） 中村鴈治郎	近松座「心中天網島」をはじめとする年間の活躍（6月＝東京・サンシャイン劇場ほか）
	（美術） 藤平 伸	「藤平伸展」（3月＝東京・ギャラリー土画）
	<small>—陶芸—</small>	「陶芸の現在—京都から」（8月～9月＝東京・日本橋高島屋など）
	（放送） 山田 太一	「チロルの挽歌」（4月＝NHK総合テレビ）
		「悲しくてやりきれない」（11月＝TBSテレビ）のシナリオ
特別賞（音楽）	青の会	「青の会」第65回演奏会「三善晃 歌曲の夕べ」（11月＝東京文化会館）

■第35回（平成5年・1993年度）

毎日芸術賞（書道）	稲村 雲洞	「今を啓く 稲村雲洞新作書展」（8月、東京セントラル美術館）など
	（文学） 遠藤 周作	小説「深い河（ディープ・リバー）」（6月、講談社刊）
	（美術） 永井 一正	「現代の表現 七人の作家展」（10月、銀座ミキモトホール）
	<small>—グラフィック—</small>	など一連のポスター表現
	（音楽） 松村 禎三	オペラ「沈黙」（11月、東京・日生劇場）
	（美術） 柳原 義達	「柳原義達展」（9月～12月、東京・国立近代美術館）など
	<small>—彫刻—</small>	
特別賞（放送）	橋田寿賀子	TVドラマ「おしん」「渡る世間は鬼ばかり」など一連の良質な脚本

■第36回（平成6年・1994年度）

- 毎日芸術賞（音楽） 秋山和慶指揮・東京交響楽団 第400回定期演奏会「シェーンベルク『モーゼとアロン』」（1月、東京・サントリーホール）
- （美術） 今井 政之 「今井政之展」（6月、京都高島屋ほか）、「今井政之一象嵌の世界展」（9月、広島福屋）
- （演劇） 幸田 弘子 「幸田弘子の会」における「たけくらべ」朗読の成果（10月、東京・東邦生命ホール）
- （美術） 土谷 武 「土谷武展」（10月～11月、東京・ギャラリーヤマネ）
- （美術） 横尾 忠則 「横尾忠則の全ポスター」（9月、誠文堂新光社刊）をはじめとする永年の功績

■第37回（平成7年・1995年度）

- 毎日芸術賞（音楽） 今井 信子 「ヒンデミット・ビオラ・フェスティバル」（4月＝東京・カザルスホール及びドイツ文化センター）
- （写真） 江成 常夫 「まぼろし国・満州」（8月＝銀座ニコンサロン、4月＝新潮社刊）、「記憶の光景・十人のヒロシマ」（8月＝新宿ニコンサロン、新潮社刊）の写真展と出版
- （放送） NHK「映像の世紀」制作スタッフ NHKスペシャル「映像の世紀」全11回（3月～）
- （演劇） （財）兵庫現代芸術劇場 ひょうご舞台芸術第9回公演「GHETTO」（6月～7月＝シアターコクーン、新神戸オリエンタル劇場）
- （美術） 深見 陶治 「京都の美術 昨日・きょう・明日 16」展（2月～3月＝京都市美術館）
- 特別賞（演劇） （財）都民劇場 半世紀にわたる都民劇場の活動

■第38回（平成8年・1996年度）

- 毎日芸術賞（映画） 小栗 康平 映画「眠る男」（2月～8月＝岩波ホールほか群馬県内などで上映）の監督
- （演劇） 黒柳 徹子 「幸せの背くらべ」（3月～4月＝銀座セゾン劇場）ならびに「マスター・クラス」（10月～11月＝同）での演技
- （美術） 杉浦 康平 「井上有一全書業」（UNAC TOKYO刊）をはじめとする一連のブックデザイン
- （美術） 野見山暁治 「野見山暁治展—その、動く気配の一瞬の形を」（10月～12月＝練馬区立美術館）の成果
- （文学Ⅱ） 馬場あき子 歌集「飛種」（3月＝短歌研究社刊）ならびに刊行中の「馬場あき子全集」（三一書房刊）など全業績
- （文学Ⅰ） 古井 由吉 「白髪（はくはつ）の唄」（8月＝新潮社刊）の執筆
- 特別賞（建築） 篠原 一男 作品集「篠原一男」（7月＝TOTO出版刊）の刊行と一連の建築業績

■第39回（平成9年・1997年度）

毎日芸術賞（文学Ⅱ）	入澤 康夫	「入澤康夫〈詩〉集成」上下巻（1996年12月＝青土社刊） 「唄一遠い冬の」（7月＝書肆山田刊）の詩作
（文学Ⅰ）	金 石範	「火山島」全7巻（1976年～1997年＝文藝春秋刊）の執筆
（演劇）	坂東玉三郎	「壇浦兜軍記」の阿古屋（1月＝東京・国立劇場）「籠釣瓶花街酔醒」の八ッ橋（3月＝東京・歌舞伎座）「加賀見山田錦絵」の尾上の演技
（映像）	宮崎 駿	アニメーション映画「もののけ姫」（7月＝全国東宝系で上映）の原作・脚本・監督
（建築）	山本 理顕	「宮城県・岩出山町立岩出山中学校」（1994年～1996年完工）の設計
特別賞（演劇）	別役 實	「雨が空から降れば」（10月～11月＝東京・紀伊國屋ホール）をはじめ100本を超える戯曲

■第40回（平成10年・1998年度）

毎日芸術賞（演劇）	片岡仁左衛門	「15代目仁左衛門襲名披露公演」（1月～2月＝歌舞伎座）での「寺子屋」の松王丸、「熊谷陣屋」の熊谷直実、「吉田屋」の伊左衛門の演技
（文学Ⅰ）	萩原 葉子	「葎麻の家 3部作」（10月＝新潮社刊）の執筆
（美術）	村岡 三郎	「村岡三郎展」（1997年11月～1998年1月＝東京国立近代美術館、1月～3月＝京都国立近代美術館）の成果
（文学Ⅱ）	森 澄雄	句集「花間」（7月＝朝日新聞社刊）の句作と随想集「俳句のいのち」（2月＝角川書店刊）の執筆
（美術）	樂吉左衛門	「樂茶碗の四〇〇年 伝統と創造」展（6月～8月＝サントリー美術館）の成果

■第41回（平成11年・1999年度）

毎日芸術賞（文学Ⅱ）	岡井 隆	歌集「ヴォツェック／海と陸」（3月＝ながらみ書房刊）の歌作と「短歌と日本人」（全7巻）（6月完結＝岩波書店刊）の企画編集
（文学Ⅰ）	河野多恵子	「後日の話」（2月＝文藝春秋刊）の成果
（映画）	高倉 健	映画「鉄道員（ぽっぽや）」（6月＝全国東映系）の演技
（書道）	中野 北溟	「北欧叙事詩『カレワラ』の光彩—中野北溟の書作による神話世界」（9月＝北海道立文学館）の成果
（演劇）	蜷川 幸雄	「リチャード三世」（2月＝彩の国さいたま芸術劇場）、「リア王」（9月～10月＝同劇場）の演出
特別賞（音楽）	藤沢市民オペラ	「リエンツィ・最後の護民官」（1998年11月＝藤沢市民会館大ホール）の成果

■第42回（平成12年・2000年度）

毎日芸術賞（映像Ⅰ）大島 渚
—映画—
 （文学Ⅰ）黒井 千次
—小説—
 （音楽）鈴木 雅明
 （建築）内藤 廣

（映像Ⅱ）畠山 直哉
—写真—

（美術Ⅰ）山口 勝弘
—絵画—

特別賞（映像Ⅰ）吉永小百合
—映画—

映画「御法度」（1999年12月＝全国松竹系）の監督
 小説「羽根と翼」（2000年7月＝講談社刊）の執筆
 2大受難曲などのバッハ演奏活動
 牧野富太郎記念館（施工＝1997年8月～1999年3月、開館＝1999年11月・高知県）の設計
 写真集「Underground（アンダーグラウンド）」（2000年6月＝メディアファクトリー刊）
 「闇2000光一山口勝弘展」（2000年9月～12月＝富山県入善町・下山芸術の森発電所美術館）
 映画「長崎ぶらぶら節」（2000年9月＝全国東映系）の演技

■第43回（平成13年・2001年度）

毎日芸術賞（演劇）麻実 れい

（書道）大井 錦亭

（文学Ⅰ）加藤 幸子
—小説—

（文学Ⅱ）鷹羽 狩行
—俳句—

（建築）六角 鬼丈

特別賞（美術Ⅰ）新宮 晋
—彫刻—

「サラ」（2001年9月～10月＝サンシャイン劇場、新神戸オリエンタル劇場）の演技
 「錦亭の書の世界」展（2001年9月＝銀座・ロイヤルサロン）での谷川俊太郎の詩への仮名による挑戦
 「長江」（新潮社刊）における文学活動の集大成的な成果
 句集「十三星」（角川書店刊）、海外吟句集「翼灯集」（同）の成果
 「感覚ミュージアム」（宮城県岩出山町）の設計
 環境彫刻「ウインドキャラバン」（2000年6月～2001年12月＝内外6カ所）の成果

■第44回（平成14年・2002年度）

毎日芸術賞（演劇）井上ひさし

（音楽）小澤 征爾

（文学Ⅱ）清岡 卓行
—詩—

（書道）小山やす子

（映像Ⅱ）森山 大道
—写真—

特別賞（美術Ⅲ）早川 良雄
—グラフィック—

「太鼓たたいて笛ふいて」（7月～8月＝紀伊國屋サザンシアター）をはじめとする劇作活動
 2002サイトウ・キネン・フェスティバル松本におけるブリテンのオペラ「ピーター・グライムズ」公演（8月、9月＝松本文化会館）
 詩集「一瞬」（8月＝思潮社刊）と短編小説集「太陽に酔う」（6月＝講談社刊）の成果
 小山やす子かな書展における六曲屏風「伊勢物語」（11月＝群馬県吉井町・多胡碑記念館）
 写真集「新宿」（8月＝月曜社刊）
 展覧会「早川良雄の時代—デザイン都市・大阪の軌跡」（6月～7月＝大阪・ATCミュージアム）

■第45回（平成15年・2003年度）

毎日芸術賞	(文学Ⅱ)	桂 信子	句集「草影」(6月=ふらんす堂)
	(書道)	金子 卓義	「金子卓義 史記を書く」展(9月、東京セントラル美術館)
	(文学Ⅰ)	高橋たか子	長編小説「きれいな人」(6月=講談社刊)
	(演劇)	竹本住大夫	文楽「又助住家」(5月、国立小劇場)、「すし屋」(9月、同)の語り
	(美術Ⅰ)	中西 夏之	「中西夏之展」(2002年12月～03年2月、愛知県美術館、同年4～5月、愛媛県美術館)、「二箇所一絵画場から絵画衝動へー中西夏之」展(同年1～2月、東京芸大美術館)
特別賞	(洋舞)	東京バレエ団	「ザ・カブキ」など長年にわたるすぐれた国内外公演活動

■第46回（平成16年・2004年度）

毎日芸術賞	(演劇)	観世 榮夫	能「姨捨」の演技(10月=国立能楽堂)
	(建築)	妹島 和世・西沢 立衛	「金沢21世紀美術館」(9月完工=石川県金沢市)の設計
	(文学Ⅰ)	中村 稔	「私の昭和史」(6月=青土社刊)
	(音楽)	沼尻 竜典	「音楽の未来遺産 シリーズ三善晃の世界」(3月=東京オペラシティ、10月=文京シビックホール)の企画、指揮
	(文学Ⅱ)	前 登志夫	歌集「鳥總立」(2003年11月=砂子屋書房)
特別賞	(放送)	小山内美江子・柳井満・武田鉄矢・制作関係	TBS系ドラマ「3年B組金八先生」の25年にわたる制作活動

■第47回（平成17年・2005年度）

毎日芸術賞	(文学Ⅱ)	谷川俊太郎	詩集「シャガールと木の葉」(5月=集英社)、「谷川俊太郎詩選集①～③」(6月～8月=集英社文庫)
	(演劇)	奈良岡朋子	「火山灰地」(1月、3月=東京芸術劇場)、「ドライビング・ミス・デイジー」(10月=東京芸術劇場)の演技
	(音楽)	西村 朗	室内交響曲第3番「メタモルフォーシス」(1月=大阪・いずみホール)
	(文学Ⅰ)	三木 卓	「北原白秋」(3月=筑摩書房)
	(美術Ⅰ)	李 禹煥	「李禹煥 余白の芸術」展(9月～12月=横浜美術館)
特別賞	(放送)	戦後60年企画のNHK制作関係者	テレビ番組「戦後60年企画」の企画制作

■第48回（平成18年・2006年度）

毎日芸術賞	(書道)	内山 玲子	「内山玲子書展 はちすの露」(05年12月=東京銀座画廊・美術館)
	(文学Ⅱ)	篠 弘	歌集「緑の斜面」(9月=短歌研究社)、「篠弘全歌集」(3月=砂子屋書房)
	(美術Ⅰ)	篠原有司男	「篠原有司男」展(9～11月=鹿児島・霧島アートの森)ほかの旺盛な活動
	(文学Ⅰ)	司 修	「ブロンズの地中海」(8月=集英社刊)
	(演劇)	中村吉右衛門	「元禄忠臣蔵」(10月)、「引窓」(9月)、「夏祭浪花鑑」(5月)の演技
特別賞	(映画)	木村 威夫	「紙屋悦子の青春」の美術監督をはじめとする映画美術の功績

■第49回（平成19年・2007年度）

毎日芸術賞（文学Ⅱ）岡本 眸
俳句
 （演劇） 野田 秀樹

（文学Ⅰ）平岩 弓枝
小説
 （映像Ⅱ）細江 英公
写真

（音楽Ⅱ）森山 良子
ポピュラー

特別賞（映像Ⅰ）三國連太郎
映画

句集「午後の椅子」（06年12月＝ふらんす堂）
 「THE BEE」の日本版とロンドン版の連続上演（6～7月＝東京・シアタートラム）
 小説「西遊記」（上・下巻＝毎日新聞社）
 写真集「胡蝶の夢」（06年12月＝青幻舎）、「球体写真二元論細江英公の世界」（06年12月～07年1月＝東京都写真美術館）
 デビュー「40周年記念年」としての多彩な活動、「さとうきび畑」、「涙そうそう」
 「釣りバカ日誌」シリーズや「北辰斜にさすところ」など多くの作品での演技

■第50回（平成20年・2008年度）

毎日芸術賞（映像Ⅱ）石内 都
写真

（演劇） 尾上菊五郎

（文学Ⅰ）永井 路子
小説・評論など
 （美術Ⅰ）舟越 桂
彫刻
 （文学Ⅱ）吉増 剛造
詩

特別賞（音楽Ⅱ）渡辺 貞夫
ポピュラー

「石内都展 ひろしま Strings of Time」（6～8月＝広島市現代美術館）、写真集「ひろしま」（4月＝集英社）
 「魚屋宗五郎」の宗五郎（10月＝歌舞伎座）、「白浪五人男」の弁天小僧（5月＝歌舞伎座）の演技、「小町村芝居正月」（1月＝国立劇場）の復活上演への取り組みなど
 「岩倉具視——言葉の皮を剥きながら」（3月＝文藝春秋）
 「舟越桂 夏の邸宅」展（7月～9月＝東京都庭園美術館）
 「表紙 omote-gami」（4月＝思潮社）
 長年にわたるジャズ文化の振興、日本ブラジル交流年・ボサノバ音楽誕生50周年にちなんだ演奏会など

■第51回（平成21年・2009年度）

毎日芸術賞（演劇） 鳳 蘭

（建築） 隈 研吾
 （書道） 關 正人

（文学Ⅰ）辻原 登
小説
 （音楽Ⅰ）遠山 慶子
クラシック
 特別賞（文学Ⅱ）金子 兜太
俳句

ミュージカル「COCO」（7月＝ル・テアトル銀座）、「雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた」（5月＝シアターコクーン）の演技
 根津美術館（8月完工＝東京都港区）の設計
 「第9回扶桑印社展」特別展示（4月＝東京セントラル美術館）、刻印集の刊行
 小説「許されざる者」（上・下巻、6月＝毎日新聞社）
 モーツァルトのバイオリンソナタ選曲集
 句集「日常」（6月＝ふらんす堂）に至る長年の業績

■第52回（平成22年・2010年度）

毎日芸術賞（美術Ⅱ）—工芸— 秋山 陽

（文学Ⅱ）—俳句— 大峯あきら

（文学Ⅰ）—小説— 村上 龍

（映像Ⅱ）—写真— 森村 泰昌

（音楽Ⅰ）—洋舞— 吉田 都

特別賞（音楽Ⅱ）—ポピュラー— 加山 雄三

個展「秋山陽展」（09年10～11月＝大阪・アートコートギャラリー）

句集「群生会」（9月＝ふらんす堂）の刊行

小説「歌うクジラ」（上・下巻、10月＝講談社）の刊行

個展「森村泰昌：なにものかへのレクイエム——戦場の頂上の芸術」（3月＝東京都写真美術館など）

英国ロイヤル・バレエ来日公演「ロミオとジュリエット」（6月＝東京文化会館）の演技

芸能活動50周年記念アルバム「若大将50年!」の発表など多年の活動

■第53回（平成23年・2011年度）

毎日芸術賞（美術Ⅳ）—書道— 石飛 博光

（美術Ⅰ）—絵画・彫刻— 菊畑茂久馬

（文学Ⅰ）—小説・評論— 津島 佑子

（演劇・邦舞）—文楽大夫— 豊竹咲大夫

（建築） 坂 茂

特別賞（音楽Ⅱ）—ポピュラー— 由紀さおり

「石飛博光書展 2011」（7月）

「菊畑茂久馬回顧展 戦後／絵画」（7～8月＝福岡市美術館・長崎県美術館）

「黄金の夢の歌」（講談社）

「ひらかな盛衰記・逆櫓」（9月＝国立小劇場）および「絵本太功記・尼ヶ崎」（5月＝国立小劇場・7月＝国立文楽劇場）の語り

紙による新しい建築の探究と東日本大震災被災地での活用
アルバム「1969」（EMI）と、それに伴う国際的活躍

■第54回（平成24年・2012年度）

毎日芸術賞（文学Ⅱ）—短歌— 高野 公彦

（美術Ⅰ）—絵画・彫刻— 辰野登恵子

（音楽Ⅱ）—ポピュラー— 谷村 新司

（映像Ⅲ）—放送— テレビマンユニオン

（演劇）—歌舞伎— 坂東三津五郎

特別賞（映像Ⅱ）—写真— 荒木 経惟

歌集「河骨川」（7月＝砂子屋書房）

「与えられた形象」展（8～10月＝国立新美術館）および「辰野登恵子 秋の有隣荘特別公開」（10月＝大原美術館）

アルバム「NINE」（DAO）と日中友好コンサート（9月＝国立劇場）の成果、および震災遺児支援曲「風の子守歌」の作詞など

「開拓者たち」（1月＝NHK-BS プレミアム）の制作をはじめとする映像文化への長年の貢献

「金閣寺」（1月＝新橋演舞場）、「芭蕉通夜舟」（8～9月＝紀伊國屋サザンシアターほか）および「塩原多助一代記」（10月＝国立劇場）での演技

「荒木経惟写真集展 アラーキー」（3～7月＝IZU PHOTO MUSEUM）で示した「写真集文化」の確立

■第55回（平成25年・2013年度）

毎日芸術賞（美術Ⅰ）青木 野枝

（文学Ⅱ）長田 弘

（文学Ⅰ）佐伯 一麦

（演劇・邦舞・演芸）平 幹二郎

特別賞（放送）永 六輔

個展「青木野枝 ふりそそぐものたち」愛知・豊田市美術館、名古屋市美術館（2012年10～12月）

詩集「奇跡—ミラクル—」（みすず書房）

小説「還れぬ家」（新潮社）

舞台「鹿鳴館」（2013年6月劇団四季）「唐版 滝の白糸」（2013年10月シアターコクーン）での演技

旅番組「遠くへ行きたい」など、長年にわたるテレビ・ラジオへの貢献

■第56回（平成26年・2014年度）

毎日芸術賞（音楽Ⅰ）飯守泰次郎

（文学Ⅱ）鍵和田柚子

（美術Ⅰ）隠崎 隆一

（美術Ⅲ）船本 芳雲

（演劇・邦舞・演芸）柳家小三治

特別賞（文学Ⅰ）松浦 寿輝

舞台神聖祝祭劇「パルジファル」の成果（新国立劇場）

句集「濤無限」（角川学芸出版）

「隠崎隆一 事に仕えて」展（東京・菊池寛実記念 智美術館）

「沁みいる故郷 船本芳雲書展」（横浜・そごう美術館）

江戸の古典落語を体現した一連の高座

「明治の表象空間」（新潮社）

■第57回（平成27年・2015年度）

毎日芸術賞（文学Ⅱ）伊藤 一彦

（演劇・邦舞・演芸）桐竹勘十郎

（音楽Ⅰ）庄司紗矢香

（美術Ⅰ）菅 木志雄

（文学Ⅰ）宮城谷昌光

特別賞（映画）是枝 裕和

歌集「土と人と星」（9月＝砂子屋書房）をはじめとする歌作と若山牧水研究の成果

「生写朝顔話」の萩の祐仙（7～8月＝国立音楽劇場）および

「妹背山婦女庭訓」のお三輪（9月＝国立小劇場）の成果

「ベートーベン バイオリン・ソナタ全曲」CD録音完結記念全国ツアー公演（6月＝サントリーホールなど10カ所）

「菅木志雄」展（14年11月～15年3月＝静岡・ヴァンジ彫刻庭園美術館）および「菅木志雄 置かれた潜在性」展（1～3月＝東京都現代美術館）の成果

小説「劉邦」全3巻（5～7月＝毎日新聞出版）

「海街diary」（6月＝全国東宝系）の監督・脚本・編集

■第58回（平成28年・2016年度）

毎日芸術賞（放送）石井ふく子

（美術Ⅰ）河口 龍夫

（映画）黒沢 清

（文学Ⅰ）筒井 康隆

（音楽Ⅰ）堤 剛

特別賞（音楽Ⅱ）坂本 冬美

TBS テレビ「居酒屋もへじ—母という字—」（6月）、「渡る世間は鬼ばかり」（9月）のプロデュース

個展「河口龍夫—時間の位置—」（10～11月＝埼玉県川口市立アートギャラリー・アトリア）

「クリーピー 偽りの隣人」（6月）、「ダゲレオタイプの女」（10月）の監督

小説「モナドの領域」（2015年12月＝新潮社）

「J.S. バッハ 無伴奏チェロ組曲 全曲演奏会」（8月＝長野県軽井沢大賀ホールなど）

アルバム「ENKA～情歌～」（10月）

■第59回（平成29年・2017年度）

毎日芸術賞（文学Ⅱ）
—詩・短歌・俳句— 有馬 朗人

（美術Ⅰ）
—絵・彫・工芸・グラフィック— 遠藤 利克

（文学Ⅰ）
—小説・評論— 高村 薫

（美術Ⅲ）
—書道— 仲川 恭司

（演劇・邦舞・演芸） 山路 和弘

特別賞（音楽Ⅰ）
—クラシック・洋楽— 熊川 哲也

句集「黙示」（角川文化振興財団）、並びに現代俳句の発展と国際化に果たした功績

個展「遠藤利克展—聖性の考古学」（7～8月＝埼玉県立近代美術館）

小説「土の記」上・下巻（16年11月＝新潮社）

個展「仲川恭司書作展」（9月＝東京銀座画廊・美術館）

「江戸怪奇譚～ムカサリ」（5～6月＝青年座劇場など）および「喝采」（8～9月＝本多劇場）での演技

バレエ「クレオパトラ」全2幕（10月＝オーチャードホールなど）の制作・演出に至る長年の功績

■第60回（平成30年・2018年度）

毎日芸術賞（音楽Ⅰ）
—クラシック・洋楽— 金森 穰

（文学Ⅱ）
—詩・短歌・俳句— 栗木 京子

（美術Ⅰ）
—絵・彫・工芸・グラフィック— 内藤 礼

（演劇・邦舞・演芸） 永井 愛

（文学Ⅰ）
—小説・評論— 宮本 輝

特別賞（映画） 大林 宣彦

Noism 公演「Mirroring Memories」（4月＝東京文化会館）および「Romeo & Juliets」（7～9月＝新潟市民芸術文化会館など）の演出・演技

第10歌集「ランプの精」（現代短歌社）

「内藤礼—明るい地上には あなたの姿が見える」展（7～10月＝水戸芸術館現代美術ギャラリー）

二兎社公演「ザ・空気 ver. 2 誰も書いてはならぬ」（6～7月＝東京芸術劇場シアターイーストなど）の作・演出

小説「流転の海」（新潮社）シリーズ完結 全9部

映画「花筐 / HANAGATAMI」（2017年12月公開）

■第61回（令和元年・2019年度）

毎日芸術賞（文学Ⅱ）
—詩・短歌・俳句— 宇多喜代子

（文学Ⅰ）
—小説・評論— 逢坂 剛

（演劇・邦舞・演芸） 草笛 光子

（音楽Ⅰ）
—クラシック・洋楽— 佐藤 俊介

（美術Ⅰ）
—絵・彫・工芸・グラフィック— 塩田 千春

特別賞（放送） 今野 勉

第8句集「森へ」（青磁社）をはじめとする、これまでの句業

小説「百舌落とし」（集英社）刊行に伴う小説「MOZU」シリーズ完結 全7巻

舞台「ドライビング・ミス・デイジー」（6～7月＝東京・紀伊国屋ホールほか 仙台・名古屋）のデイジー・ワーサンの演技

オランダ・バツハ協会管弦楽団 日本ツアーの弾き振り（9月30日＝東京・浜離宮朝日ホールほか 京都・横浜・さいたま・広島）

個展「塩田千春展：魂がふるえる」（6～10月＝東京・森美術館）

NHK「宮沢賢治 銀河への旅」（18年12月～19年2月）の演出と、長年にわたるテレビへの貢献

■第62回（令和2年・2020年度）

毎日芸術賞（建築）	青木 淳・西澤 徹夫	京都市京セラ美術館の改修設計
	（演劇・邦舞・演芸） 鶴山 仁	舞台「リチャード二世」（10月=東京・新国立劇場）の演出とシェークスピア歴史劇シリーズ完結
	（美術Ⅰ） 鴻池 朋子	「鴻池朋子 ちゅうがえり」（6～10月=東京・アーティゾン美術館）
	（文学Ⅰ） 高樹のぶ子	「小説伊勢物語 業平」（日本経済新聞出版）
	（文学Ⅱ） 水原 紫苑	歌集「如何なる花束にも無き花を」（本阿弥書店）
特別賞（放送）	TBS系ドラマ	「半沢直樹」の制作者、出演者 TBS系ドラマ「半沢直樹」（7～9月放送）の企画・制作

■第63回（令和3年・2021年度）

毎日芸術賞（演劇・邦舞・演芸）	風間 杜夫	「女の一生」の堤章介役（20年11月=新橋演舞場）、「セールスマンの死」のウィリー・ローマン役（1月=K A A T神奈川芸術劇場）、「白昼夢」の高橋清役（3～4月=東京・本多劇場）、「ベンガルの虎」の隊長役（6月=新宿・花園神社境内特設紫テント）、「帰ってきたカラオケマン」の牛山明役（9月=東京芸術劇場）での演技
	（美術Ⅲ） 下谷 洋子	「下谷洋子書展—上州の韻き こよなく・かな—」（7月=東京・和光ホール）
	（文学Ⅱ） 高橋 睦郎	詩集「深きより 二十七の聲」（思潮社）
	（美術Ⅰ） 三島喜美代	「アナザーエナジー展：挑戦しつづけるカー世界の女性アーティスト16人」（21年4月～22年1月=東京・森美術館）
特別賞	（文学Ⅰ） 皆川 博子	「インタビュー・ウィズ・ザ・プリズナー」（早川書房）
	（音楽Ⅰ） 吉野 直子	吉野直子ハープ・リサイタル2021（1月23日=サントリーホール・ブルーローズ）に至る長年の功績

■第64回（令和4年・2022年度）

毎日芸術賞（美術Ⅰ）	遠藤 彰子	「物語る 遠藤彰子展」（神奈川・平塚市美術館）
	（演劇・邦舞・演芸） 加藤 健一	舞台「スカラムーシュ・ジョーンズ or 七つの白い仮面」「サンシャイン・ボーイズ」の演技
	（音楽Ⅱ） 加藤登紀子	CDアルバム「果てなき大地の上に」（TOKIKO RECORDS）の制作
	（文学Ⅰ） 桐野 夏生	小説「燕は戻ってこない」（集英社）
	（文学Ⅱ） 永田 和宏	歌集「置行堀」（現代短歌社）

■第65回（令和5年・2023年度）

毎日芸術賞（演劇・舞・演） 大竹しのぶ

（美術Ⅰ） 大竹 伸朗
— 絵・彫・工芸・グラフィック —

（文学Ⅱ） 柿本 多映
— 詩・短歌・俳句 —

（文学Ⅰ） 北方 謙三
— 小説・評論 —

（音楽Ⅱ） 山下 洋輔
— ポピュラー —

ユニクロ賞（音楽Ⅰ） 沖澤のどか
— クラシック・洋楽 —

舞台「GYPSY」（4～5月＝東京芸術劇場ほか）、「ヴィクトリア」（6～7月＝東京・スパイラルホールほか）、「ふるあめりかに袖はぬらさじ」（9月＝東京・新橋演舞場）での演技

「大竹伸朗展」（22年11月～23年2月＝東京国立近代美術館、5～7月＝愛媛県美術館、8～9月＝富山県美術館）

句集『ひめむかし』（深夜叢書社）

「チンギス紀」全17巻（集英社）

重量盤アナログレコード「村上春樹 presents 山下洋輔トリオ再乱入ライブ」

「京都市交響楽団常任指揮者就任披露演奏会」（4月14、15日＝京都コンサートホール、9月24日＝東京・サントリーホール）

■第66回（令和6年・2024年度）

毎日芸術賞（演劇・舞・演） 市村 正親

（文学Ⅰ） 奥泉 光
— 小説・評論 —

（美術Ⅲ） 慶徳 紀子
— 書 —

（文学Ⅱ） 小島ゆかり
— 詩・短歌・俳句 —

（音楽Ⅰ） 渡邊 順生
— クラシック —

特別賞（放送） 野沢 雅子

ユニクロ賞（映画） 山中 瑤子

ミュージカル「スウィーニー・トッド」（3～4月＝東京・東京建物 Brillia ホールほか全国）、ミュージカル「モーツァルト!」（8～11月＝東京・帝国劇場ほか全国）での演技

小説「虚史のリズム」（集英社）

「『間』慶徳紀子書展」（7月＝東京・セイコーハウスホール）

歌集「はるかなる虹」（短歌研究社）

アルバム「フローベルガー&ルイ・クーブラン：チェンバロ精華集」、J.S. バッハ：トッカータ全7曲のチェンバロ演奏会（6月22日＝東京・今井館聖書講堂）

テレビアニメ「ドラゴンボールDAIMA」（10月～フジテレビ系）での主人公・孫悟空の声など長年の功績

映画「ナミビアの砂漠」（9月公開）

毎日芸術賞とは

毎日芸術賞は1959年（昭和34年）、毎日新聞が創刊3万号を迎えたのを契機に芸術部門ごとに行われてきた顕彰制度を一本化して創設しました。芸術全分野の活動を対象に、前年の11月1日から当該年の10月末までの年度内に特に優れた芸術的成果を挙げた個人、団体を対象に表彰しています。

国内で最高水準の顕彰事業として評価され、本社文化事業の頂点を成す賞として知られています。

〈注〉各部門については、受賞当時の部門分けによる表記で掲載しております。

ユニクロ賞とは

第65回に株式会社ユニクロが特別協賛社となり、40歳未満の若手芸術家を支援するために新設しました。芸術全分野の活動を対象に、前年の11月1日から当該年の10月末までの年度内に特に優れた、かつ新鮮な芸術的成果を挙げた個人および団体を対象に表彰します。

年齢は、当該年の1月1日現在で40歳未満であること、団体については同日現在で構成員の平均年齢が40歳未満であることを条件とします。

*****千田是也賞*****

※ 第20回で終了

- ◆第1回（平成10年・1998年度）
栗山 民也 — 「エヴァ、帰りのない旅」（3月＝紀伊國屋ホール）、「今宵か
ぎりは…」（6月＝新国立劇場）の演出
- ◆第2回（平成11年・1999年度）
鵜山 仁 — 「おばかさんの夕食会」（5月～6月＝シアターコクーン）、「夢
の島イニシュマーン」（10月＝紀伊國屋ホール）の演出
- ◆第3回（平成12年・2000年度）
小池修一郎 — ミュージカル「エリザベート」（6月～8月＝帝国劇場）の演
出
- ◆第4回（平成13年・2001年度）
宮田 慶子 — 演劇「赤シャツ」（5月＝紀伊國屋ホール）、「サラ」（9月～
10月＝サンシャイン劇場など）、「悔しい女」（11月＝本多
劇場）の演出
- ◆第5回（平成14年・2002年度）
高瀬 久男 — 「スカイライト」（2001年11月～12月＝OFF-OFFシアター）、
「アラビアンナイト」（7月～8月＝青山円形劇場）の演出
- ◆第6回（平成15年・2003年度）
松本 修 — 「AMERIKA」（3月＝シアタートラム）、「現代日本戯曲再発
見シリーズ Vol.2」（8月＝ザ・スズナリ）の演出
- ◆第7回（平成16年・2004年度）
丹野 郁弓 — 「明石原人」（2月＝紀伊國屋ホール）、「スポイルズ・オブ・
ウォー」（10月＝紀伊國屋サザンシアター）の演出
- ◆第8回（平成17年・2005年度）
松本 祐子 — 「ぬけがら」（5月＝文学座アトリエ）、「ピーター・パン」（7
月＝東京国際フォーラムCホール）の演出
- ◆第9回（平成18年・2006年度）
いのうえひでのり — 「メタル マクベス」（5～6月＝青山劇場）の演出
- ◆第10回（平成19年・2007年度）
鈴木 裕美 — 「宝塚 BOYS」（6月＝ルテアトル銀座）、「たとえば野に咲く
花のように——アンドロマケ」（10月～11月＝新国立劇場）
の演出
- ◆第11回（平成20年・2008年度）
森 新太郎 — 「田中さんの青空」（5月＝ステージ円）、「孤独から一番遠い
場所」（10～11月＝ステージ円）の演出
- ◆第12回（平成21年・2009年度）
山田 和也 — ミュージカル「シラノ」（5月＝日生劇場）、「ラ・カージュ
・オ・フォール」（2008年12月＝日生劇場）の演出
- ◆第13回（平成22年・2010年度）
熊林 弘高 — 「おそろべき親たち」（10月～11月＝東京芸術劇場）の演
出
- ◆第14回（平成23年・2011年度）
中津留章仁 — 「背水の孤島」（9月＝笹塚ファクトリー）の演出

- ◆第15回（平成24年・2012年度）
伊藤 大——「THAT FACE ～その顔」（6月＝青年座劇場）の演出
- ◆第16回（平成25年・2013年度）
小川絵梨子——「ピローマン」（3月＝下北沢「劇」小劇場）、「帰郷」（6月＝シアター風姿花伝）、「OPUS/ 作品」（9月＝新国立劇場）の演出
- ◆第17回（平成26年・2014年度）
上村 聡史——「アルトナの幽閉者」（2月～3月＝新国立劇場）「信じる機械」（5月～6月＝文学座アトリエ）「炎 アンサンディ」（9月～10月＝世田谷パブリックシアター）の演出
- ◆第18回（平成27年・2015年度）
行定 勲——「ブエノスアイレス午前零時」（2014年11月～12月＝新国立劇場など）、「タンゴ・冬の終わりに」（15年9月～10月＝パルコ劇場など）の演出
- ◆第19回（平成28年・2016年度）
藤井 こう——「カムアウト2016↔1989」（2016年3月＝ザ・スズナリ）「郡上の立百姓」（9月＝紀伊國屋ホールなど）「海ゆかば水漬く屍」（10月＝スペース雑遊）の演出
- ◆第20回（平成29年・2017年度）
野村 萬斎——「^し子^{ごせん}午^{まつ}線の^{まつ}祀り」（7月＝世田谷パブリックシアター）の演出

千田是也賞とは



千田是也賞は、日本の現代演劇をリードし、最晩年まで現役演出家として活躍した千田是也氏（1904～94・写真）の業績を顕彰し、毎日芸術賞演劇部門の寄託賞として1998（平成10）年度から2017（平成29）年度まで設けました。千田氏の遺族からの寄託を受け、当該年に目覚ましい活躍をした中堅から新人までの演出家1人を表彰しました。

